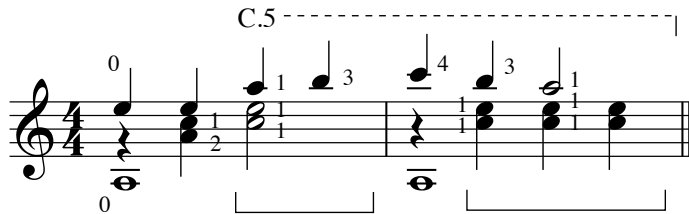


● それではセーハの実践に移りましょう。

目指しているセーハは、1小節半（四分音符で6コ分）の時間です。

おそらく5?6秒のものですが、3回出てきます。セーハの前に「力んだ」ひき方をしていると、きちんとツボを押さえられず音にならない可能性があります。

音にならない原因は他にもあります。とりあえず譜例-49をひいてみて下さい。



● 1小節の3拍目は音が出たでしょうか？

きちんと出た方は素晴らしいです。

ひょっとすると、4拍目の「シ」を押さえたとき2弦3弦の音が止まってしまった人はいないでしょうか。

□で示した1), 2)は「えいや?っ!」しかありませんが、3指で「シ」を押さえたときに2指が1指にくっついていて1指は浮いてしまいます。2指は1指から離してセーハしましょう。

また、1小節目は出ても2小節目に移ったときに2弦3弦の音が割れてしまった人もいたのではないかと思います。

そうなった人は、1)と2)の間は「えいや?っ!カッコ」が途切れていることに注目して下さい。

2小節の1拍目はセーハの1指に力を入れ続ける必要はないのです。

でも、1指を弦から離してしまってはいけません。弦の張力に押し戻された格好で1指の力を抜き、2)のときに再び「えいや?っ!」とやるわけです。

その間0.5秒ほど。0.5秒間1指を休めるだけで、2)のセーハはクリアできるはずですよ。

17. 「荒城の月」を完成させましょう。(その-2)

● 「荒城の月」(完成品!)は次ページにあります。いくつかの新しい要素が含まれています。

また、一般的五線譜に記入される発想標語・記号のいくつかも新たに追加されていますので、先に説明しておきます。疑問を感じることがありましたらそのつどページを戻っててください。

1. $D.S. al \oplus$ は「 \mathcal{S} 小節に戻って $\oplus \sim \oplus$ へつなぐ」ことを指示する反復記号です。
2. rit.は少しずつ遅くしていくことを指示する発想標語です。
3. \curvearrowright はフェルマータといって「ほどよく音を伸ばす」発想記号です。
4. Meno mosso はテンポを遅くする意味の発想標語で、テンポは奏者のフィーリング次第です。
5. 奏最後の5pos.セーハの和音に付いている波線は、和音の下の音から順にポロ?ン…と弾く記号で、今の段階では、P指を3弦から1弦へ向って滑らせて弾くのがベターでしょう。
6. \sim の箇所は低音(伴奏音)も音階的に動いています。滑らかに弾けるように練習して下さい。
7. □のところは、P指をすべらせるようにして6弦から4弦まで弾きます。6弦の解放弦を強いている時間内に、シ=5弦、ミ=4弦、ソ#=3弦の指を押さえてしまえるように練習しましょう。

☆さて、皆さんは、この「荒城の月でギター入門」テキストの最終目的にまで到着しました。

この「荒城の月」(完成品!)の技術レベルは中級の内容です。

今後は付録の曲集を引くことで楽譜を読む力を養い、技術的にも音楽的にもより高度な内容の作品にチャレンジされることを楽しんで下さい。

ここまで練習に励んでいただいたことに感謝しつつ、さらに学ばれたい方はお近くのギター教室、あるいは相性の合う(これは大切です)ギター講師に学ばれることをお勧めします。

平佐 修 (2011年11月/2014年2月改訂)